

KAS

風の谷

びゅう  
VIEW

社会福祉法人 風の谷  
相模原市田名7236-3  
発行責任者 政野 光廣  
042-760-1033

<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>  
e-mail:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp

今年の一泊旅行のテーマは、“体験”



新たな境地をもとめて

期待もひとしお

不安もはんぶん

小田原でかまぼこ

箱根でらくやき

霧が峰で乗馬

伊豆でイルカと・・・

あの人とこの人とが、

それにこの人と え~と

8人が1つの

コテージでカレー

出来なかったこともまた

体験

まずは笑顔を



いずれその報告を

【2005年 秋号】

巻頭文	P 2	相模原自閉症支援センターのページ	P 3
特集：やまびこ工房の取り組み	P 4・P 5	研修報告	P 6
ナウシカ	P 7	後援会のページ	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 柳場秀雄 〒228 0806 相模原市栄町 6 14

毎月15日発行 購読料1部 50円

## 障害者自立支援法が成立して～支援費制度の終焉～

去る10月31日の衆議院本会議において、圧倒的多数である与党の賛成により『障害者自立支援法』が可決成立しました。2003年4月に社会福祉基礎構造改革という大きな改革の流れの中で『措置制度』から『支援費制度』に移行して、わずか2年半しか経っていないのに(!)です。本法の施行は来年の4月からになりますので、支援費制度は丸3年の「命」だったことになります。

さて、支援費制度が導入される経過の中では、従来の仕組みである措置制度について、利用者は行政処分の対象であり、行政から委託を受けた事業者から一方的に供されるサービスに甘んじなければならないなど、その弊害がことさら強調され説明されました。そして、それらの問題は支援費制度が解決するような期待とともに、施設福祉偏重の施策から地域生活支援重視の施策へと大きくシフトしていくこと、また、障害程度区分の認定においては、従来のようにIQなど機能的側面にのみ着目するのではなく、どのような支援を必要とする方なのかとの観点で総合的に判断され、サービスは個々に応じて必要な量が支給されるとの方向性が示されたのでした。支援費制度開始前年には「自閉症」を冠した『自閉症・発達障害支援センター（現在は発達障害支援センター）』が制度化されたこともあり、行動面での支援を多く必要とする自閉症の方たちにとって、質量ともによい支援を受けられる時代がいつに來るかとの期待を持って迎えた制度であったことは確かなことです。

しかし、一方で、支援費制度は障害者本人が利用者として事業者と契約し、サービスを選択して利用する制度であることから、本来は、契約やサービス選択を支援する施策(ケアマネジメント etc.)が制度開始時には十分整っている必要がありました。にもかかわらず、未整備のまま見切り発車のような形で制度がスタートした現実があります。

こうしてスタートした支援費制度の下で、居宅介護事業(ホームヘルプサービス)の利用が飛躍的な伸びを見せました。とりわけ知的障害の関係では移動介護(ガイドヘルプサービス)の利用が著しく伸びたのです。これまで施設以外に利用できるサービスがほとんどなかったことを考えると、潜在的なニーズが顕在化するのには至極当然のことであったと思います。当法人のサービス利用者にも通称「ガイヘル」としてすっかり定着し、毎日利用が途切れることのない状況が続いています。

しかし、今やなくてはならないこのサービスの利用増が支援費制度の財源不足を招いた大きな一因とされ、現状での制度持続は困難との判断から厚生労働省は昨年10月に「改革のグランドデザイン案」を公表したのでした。この案を法制化したのが障害者自立支援法というわけです。この法律は介護保険との統合を前提とした制度設計になっているために、負担の均衡を図るとして原則一割の定率負担や、現行の要介護認定基準をベースとした障害程度区分判定、市町村審査会の設置等が行われることとなります。

障害者自立支援法が成立したことにより、来年4月には利用者負担の見直しが実施されることが確実となりました。負担増加率は通所施設で約12倍、居宅支援で約5.6倍との試算データもあるようですが、いずれにせよ、大きな負担増になるのは間違いないようです。

所得保障を前提とせず、使ったサービス量に応じて負担を求めるとする新制度が、今後どのような結果を障害者の方たちの生活にもたらすのか、大いに懸念されるところです。

やまびこ工房にとっても、月額制であったサービス報酬が日額制に変わることとなり、大幅な収入減が予測されます。そして、自閉症の方たちへの支援に特化して歩みを進めてきた当法人にとっても、設立以来、最大の試練が訪れていることだけは間違いありません。

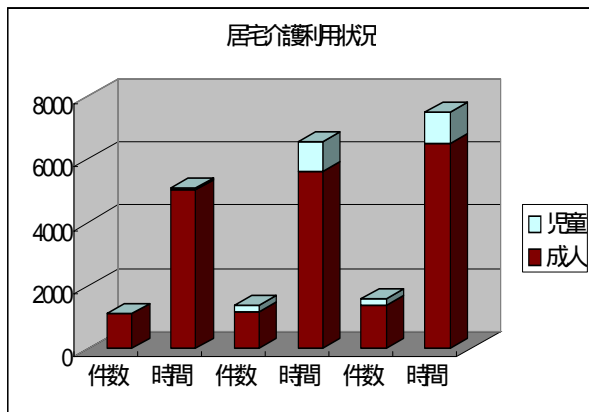
しかし、ピンチの時こそチャンスありと捉えて、利用者にサービス低下のつけを回すことのないよう、この難局に全力で立ち向かいたいと思います。

皆様の更なるご支援とご協力をお願いいたします。

やまびこ工房施設長 中島博幸

## 自閉症支援センターだより

今回は、自閉症支援センターの利用状況変遷をご報告いたします。相模原市では支援費制度が始まる約一年前よりガイドヘルプサービスがスタートいたしました。やまびこ工房でも業務委託の形で関わってまいりましたが、平成15年の支援費制度スタートと同時に自閉症支援センターを開設し、事業として本格的にスタートいたしました。今後さらに制度が変わっていく中で、現在利用されている皆様のニーズ(量)がどのように変わって行き、受け皿である事業所はどのような状況なのかをグラフを交えて紹介したいと思います。



	15年度		16年度		17年度	
	件数	時間	件数	時間	件数	時間
成人	1108	5029	1187	5634	1394	6519
児童	17	87	206	955	214	986

17年度は4~9月実績×2、児童の認可は15年度12月から

当事業所でも、3年の間に件数で143%、時間で147%の伸びがあったわけですから、全国から寄せられた実績を見て、行政も相当あせったと思います。しかし、始めからしっかりとした予算立てができていれば、こんなにも早く支援費制度が破綻する事もなかったことでしょう。その支援費制度3年間で支給基準額の減額が数回行われ、事業所への利用料収入は利用の増加に対し反比例の傾向にあります。今年度は前年同期比で約83%の収入です。ただし、利用者のニーズはこれ以上であることは間違いありません。延べ時間が増えているだけでなく、契約者数も増えています。(潜在的なものも含めると更に増えるでしょう。10月現在自閉症支援センターとの契約者：成人43名、児童14名)

	15年度	16年度	17年度
登録ヘルパー	17名	26名	28名
活動実績のあるヘルパー	16名	17名	17名

しかし、表に示したとおり当事業所と契約しているヘルパー数が相対的に少ないのが現状です。そのためすべてのニーズに対して受けきれずはならず、お断りするケースも増えてきました。活動実績のあるヘルパーの殆どが、やまびこ工房やグループホームなどの場所で別の仕事も持っているため、慢性的なヘルパー不足を感じています。(なぜか?月に何日か希望の集中する日があるんですね。)ですから、ガイドヘルプをいかにヘルパーさん達の稼げる仕事として成り立たせ、利用者のニーズに最大限応えられる様にしていくかが、今後の最大の課題になるのでしょうか。もちろん、発達障害に対する知識、経験のあるヘルパーでないと対応が困難なケースも多いものですから、ヘルパーの専門性も必要になります。支援費制度のおかげでひき出す事の出来たこのニーズを、次期障害福祉政策のなかで埋もれさすことのないように、今後も頑張っていこうと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。ヘルパーの募集も随時受け付けております。お気軽に相模原自閉症支援センターまでご連絡ください。

(7ページの募集広告もぜひご覧ください!!)

支援センター 西村

# やまびこ工房の取り組み

## 携帯は素晴らしいタイマー！

やまびこ工房のとrikumi1ケース目に、携帯電話の機能を使ったスケジュールをご紹介します。

Aさんは今まで休憩にはパズルを行い、パズルが終わったら作業をするという流れでした。Aさんにいろいろな形の休憩をしてもらおうということで、写真1のようなスケジュールに変更し、写真2のような選択カードから休憩時間の過ごし方を選んでもらうことにしました。写真1のスケジュールから休憩カードを取り、写真2のポケットに入れて、好きな活動カードを取って、休憩をします。その時に困ったのが、ビデオを見る時間でした。ビデオを1本見てしまうと時間が長すぎたので、途中で切り上げられるようにタイマーを渡してみました。ですが、タイマーが鳴ってもAさんはずっとビデオを見ていて、次の作業に行くには職員の声掛けが必要になってしまいました。そこで、職員が使っていた古い携帯電話のタイマー機能を利用して、タイマー音をバイブレーションにしてみました。でも、残念ながら音のタイマーの時と変わりませんでした。職員の声には反応するのに、タイマーの音には反応しない...では、タイマーの音が職員の呼びかけならどうだろうと言うことで、さっそく携帯電話の機能を利用して、タイマーの音を「Aさん！ビデオおしまい！」という職員の声に変えてみました。すると、タイマーをセットした時間にAさんは職員の声がする携帯電話を持ったまま、作業室に戻ってくることができました。職員に携帯電話を渡し、いつも通り作業を始めたのです！



写真1



写真2

使わなくなった携帯電話が、こんなに素晴らしいタイマーになるのですね。

## ちょっとした工夫で仕事上手！

2ケース目にBさんの作業についてご紹介します。

やまびこ工房で行なっている受注の仕事の一つに、シュレッダー作業というものがああります。Bさんは、写真3のような紙をシュレッダーにかける仕事をしています。Bさんはハンドルを回してシュレッダーするハンドシュレッダーを使っています。最初のうち、1枚紙をとってはハンドルを回していましたが、だんだん2枚3枚とたくさん紙をとって、シュレッダーにいれてしまうようになり、シュレッダーが壊れてしまうことがありました。職員が声掛けすると1枚ずついられるのですが、できれば職員がついていなくとも、1枚ずつとってシュレッダーしてもらいたい...。そこで、写真4のように紙に小さなクリップをつけてみました。その紙と一緒にはずしたクリップを入れる入れ物も渡しました。すると、紙を一枚とって、クリップをはずすという手順が間に入ったため、紙をいっぺんにシュレッダーに詰め込んでしまうことはなくなりました。おまけに、紙にクリップをはさむという自立課題を行っていた利用者さんに、シュレッダー用の紙にクリップをはさんでもらう作業を行ってもらうことで、今まで行っていた自立課題が、より有用な作業となりました。

一石二鳥なちょっとした工夫でした。(粕谷)



写真3



写真4

# ～QWLの向上～

今年のバザーの自主製品売り場に、初めてかわいらしいビーズの動物たちが並んだのを皆さんご覧になりましたか？この動物たちは、Cさんがこの4月から取り組み始めた新しい作業から生まれました。これまでCさんは、アイロンビーズや刺繍を作業として行なっていて、ビーズの色を選んで数を数えたり、刺繍糸を針に通すことを難く行っていました。しかし、長く続けているうちに、ビーズを床に落としたり、刺繍作業を目の前にしてなかなか始められないなどの行動が出てきました。

そこで、Cさんの手先が器用なところに着目し、これまでよりも小さいビーズを使った動物作りを取り入れたのです。支援の仕方としては、まず設計図を拡大コピーし、色を塗ってビーズ数を書き入れたCさん用の指示書を用意し、その指示書と共に完成品を見本として、作業机の上に準備しました(写真5)。そして、専用の針金に1列分のビーズを予め通しておきました。変化が苦手だと思われたCさんですが、ビーズ製品作りに興味を示し、すぐに指示書の見方を覚えてやり方も習得しました。ただし、2本の針金のどちらからビーズを入れるかが分からなくなってしまうようだったので、片側に黒の油性ペンで印をつけ、常にそちら側からビーズを入れるという工夫をしました(写真6)。コアラ、アライグマ、イヌ、イカ、クジラ...など、様々な種類の動物が次々にできあがることは、Cさんも楽しいようで、「明日は、 を作る。」と宣言して帰るなど、これまでなかった発言も出るようになりました。



写真5



写真6

新しい複雑な作業を集中して行い始めたCさんは、以前のようにビーズを落としてじっと止まっているということが、ずっと少なくなりました。そして、今回何よりも嬉しかったことは、Cさんが、豊富な種類のデザインによる製品を次々と生み出すことができるようになったことが、同時に本人の仕事への意欲にもつながったということです。

また、指示書が読めることがわかったので、刺繍についても、これまでの布に印をつけ、直線に縫っていくというやり方を改め、指示書で提示してみたところ、複雑なデザインの物でも指示書を数枚に分けるなどの工夫をすることによって、素晴らしい製品を作りあげることができるようになりました。(写真7)

このように、本人が楽しみながら、仕事の質を高め、そしてそれを製品に加工することにより、周囲の人たちに喜んで買ってもらえる、という結果につながりました。これからも、利用者さんの毎日の豊かな生活をお手伝いする為に、さらにわかりやすいように、工夫をして支援していけるようがんばっていききたいと思います。(稲垣)



写真7 上段：指示書 下段：実物

## 研修報告

### ～日本発達障害学会第40回大会 於千葉大学～

去る7月23日(土)、24日(日)の2日間にわたって日本発達障害学会の第40回研究大会が「本人主体のコラボレーション」というテーマで開催されました。発達障害をもった方々がより主体的に暮らしていくために、様々な分野の人たちが連携して支援をしていくことが最も大切ではないか、との考えから当事者の方によるシンポジウム、学校や施設の現場での実践報告等が千葉大学キャンパス内で活発に行なわれました。

私たち、やまびこ工房からも3名の代表が実践報告をさせていただきました。各利用者さんの仕事について、QWL(Quality of Working Life:仕事の質)の考え方をもとに業種やそれに取組む場所、方法について検討しつつ、設定を行なった結果を発表しましたが、予想以上にQWLという考え方に興味を持たれる方が多く、たくさんの質問をいただく事が出来ました。例えば私達が仕事の質の評価のために基準としたQWLの7つの要素の中の「意思決定の過程への参加」については、どのような方法で利用者の意向を汲みとるのか、ということ。また、障害全体を見渡した時、自閉症という診断名に惑わされず、その本人を見ることが大切ではないか等、示唆に富んだ意見も頂きました。

一日目の朝に自分たちの発表を終えた私たちは、気持ちの余裕もあり、その後たくさんの発表を聴くことができました。中でも、PECS(絵交換式コミュニケーションシステム)の実践についてのポスター発表は分かりやすく、自閉症の方が苦手とするコミュニケーションについて段階を踏んで徐々にカードを使ったコミュニケーションを身に付けていく方法は、これまでやまびこ工房で行ってきた絵カードによる支援を見直すきっかけになりました。これまではカードを渡して物を受け取るという動作に目が向いていましたが「相手に伝わることの喜び」を感じてもらおうということを私達が意識するようになりました。そうした取り組みの中、独特で相手に伝わりにくい表現をしていた人がコミュニケーションブックを使う練習をすることで、誰にでも分かりやすい言い方をするようになり、家庭でもそういった表現を使えるようになっていきます。

このような現場の知恵を学ぶ事ができる発表のほか、今話題の障害者自立支援法についてのシンポジウムでは、当事者の方々が慣れない場所での意見表明に挑戦しておられ、その中の「自分の権利は自分で戦い取らなければならない。だから、声をあげるんだ。」との訴えには感動しました。

その他、学校現場での各教科の取り組みの仕方、親の会のこれからのあり方についてなど、盛りだくさんの内容でしたが、全てに共通して主張されていたのは、テーマにもなっている通り、“本人主体”の支援をいかに実現するかということでした。親、施設職員、教員、医師、地域住民、そして行政は支援者として、何よりご本人のニーズを引き出すことの重要性を感じました。

まず、何よりもご本人の意志があってそれを支援する私たちがある、との意識とそれを実現させるための支援を提供するのが私たちの役割であることを再確認させられました。

そして、その実現の為には、それぞれの立場での役割を果たすだけでなく、各分野での専門家の連帯が欠かせないことを強く感じさせられる大会でした。一人ひとりの利用者さんの生活全体を見つめながら、各サービス提供者が連帯できる支援をつくっていきたいと思います。

(野田・鹿野)

## 研修報告

### ～日本発達障害学会第40回大会 於千葉大学～

去る7月23日(土)、24日(日)の2日間にわたって日本発達障害学会の第40回研究大会が「本人主体のコラボレーション」というテーマで開催されました。発達障害をもった方々がより主体的に暮らしていくために、様々な分野の人たちが連携して支援をしていくことが最も大切ではないか、との考えから当事者の方によるシンポジウム、学校や施設の現場での実践報告等が千葉大学キャンパス内で活発に行なわれました。

私たち、やまびこ工房からも3名の代表が実践報告をさせていただきました。各利用者さんの仕事について、QWL(Quality of Working Life:仕事の質)の考え方をもとに業種やそれに取組む場所、方法について検討しつつ、設定を行なった結果を発表しましたが、予想以上にQWLという考え方に興味を持たれる方が多く、たくさんの質問をいただく事が出来ました。例えば私達が仕事の質の評価のために基準としたQWLの7つの要素の中の「意思決定の過程への参加」については、どのような方法で利用者の意向を汲みとるのか、ということ。また、障害全体を見渡した時、自閉症という診断名に惑わされず、その本人を見ることが大切ではないか等、示唆に富んだ意見も頂きました。

一日目の朝に自分たちの発表を終えた私たちは、気持ちの余裕もあり、その後たくさんの発表を聴くことができました。中でも、PECS(絵交換式コミュニケーションシステム)の実践についてのポスター発表は分かりやすく、自閉症の方が苦手とするコミュニケーションについて段階を踏んで徐々にカードを使ったコミュニケーションを身に付けていく方法は、これまでやまびこ工房で行ってきた絵カードによる支援を見直すきっかけになりました。これまではカードを渡して物を受け取るという動作に目が向いていましたが「相手に伝わることの喜び」を感じてもらおうということを私達が意識するようになりました。そうした取り組みの中、独特で相手に伝わりにくい表現をしていた人がコミュニケーションブックを使う練習をすることで、誰にでも分かりやすい言い方をするようになり、家庭でもそういった表現を使えるようになっていきます。

このような現場の知恵を学ぶ事ができる発表のほか、今話題の障害者自立支援法についてのシンポジウムでは、当事者の方々が慣れない場所での意見表明に挑戦しておられ、その中の「自分の権利は自分で戦い取らなければならない。だから、声をあげるんだ。」との訴えには感動しました。

その他、学校現場での各教科の取り組みの仕方、親の会のこれからのあり方についてなど、盛りだくさんの内容でしたが、全てに共通して主張されていたのは、テーマにもなっている通り、“本人主体”の支援をいかに実現するかということでした。親、施設職員、教員、医師、地域住民、そして行政は支援者として、何よりご本人のニーズを引き出すことの重要性を感じました。

まず、何よりもご本人の意志があってそれを支援する私たちがある、との意識とそれを実現させるための支援を提供するのが私たちの役割であることを再確認させられました。

そして、その実現の為には、それぞれの立場での役割を果たすだけでなく、各分野での専門家の連帯が欠かせないことを強く感じさせられる大会でした。一人ひとりの利用者さんの生活全体を見つめながら、各サービス提供者が連帯できる支援をつくっていきたいと思います。

(野田・鹿野)

## グループホーム “ナウシカ” から。。。

現在グループホーム「ナウシカ」では、四名の方が支援スタッフ二名と共に地域で共同生活を送っています。そのうち、四人は年単位で、残りの一人は一ヶ月単位での体験型グループホームとして利用されています。今まで体験された方は、やまびこ工房職員との連携を基に、グループホームの支援スタッフが個別に対応する事で、大きな混乱を起す事もなく生活を送っています。そのおかげか、長期的な利用時においても初日から慣れた様子で過ごすことができている方がほとんどです。

共同生活を送る中で、支援スタッフとして、“プライバシーの保護”“個別に対応する事で本人が満足できるように”という事を特に心がけています。各々テレビを観たり、パズルをしたり、ときには洗濯物たたみ等のお手伝いをしてもらいながら、時間を持て余してしまうことが出来る限りに配慮しています。その中で、個人の領域に踏み込み過ぎないように気をつけています。このバランス感覚がとても難しいのですが、一人ひとりがストレスを感じすぎることなく過ごせる環境づくりができればと感じています。

将来的に地域生活の場面に出たときに、自分の要求を意思表示しながら相手に伝え、社会環境に上手く溶け込むことができれば幸いと思います。そのために今、家庭とは異なる生活を、支援を受けながら経験していただけたらと思います。まだまだ力不足は否めない支援スタッフだとは思いますが、やまびこ工房職員、保護者の方と連携をとりながら、グループホーム、そして何より本人の発展に繋がっていくように頑張りたいと思います。今後とも、ご指導のほどどうぞ宜しくお願いいたします。

ナウシカ支援スタッフ 新城

## 相模原自閉症支援センターでは、ガイドヘルパーを募集しています

当センターでは、障害をもった方の休日の外出等の余暇活動のサポートとして一人での外出が難しいという方の付き添いをするガイドヘルパーを下記の通り募集しています。詳しくは、下記の番号までお問い合わせください。お電話お待ちしております。

資格:ガイドヘルパー資格・ヘルパー2級以上・介護福祉士

時給:1200円/hから。経験などにより昇給あり。

連絡先:042-760-1033(担当:西村)

## ボランティアさんっ！！

やまびこ工房では以下の内容でボランティアを募集中です。

単調な日常にスパイスを！空いた時間に潤いを加えてみてはいかがでしょう？

1. 受注作業 利用者さんが行った作業の検品など
2. 自主制作品
  - ・ スウェーデン刺繍 新しい図案の開発やサンプル図案の作成、製品化のお手伝いなど。  
(ランチョンマット, コースター, 財布などの図柄を刺繍でデザインしています。)
  - ・ 機織 縦糸はり、技術指導など。
  - ・ 紙すき はがき作り、絵付けなど。
3. 日中活動 普段行なっている散歩や外出(ボウリング, プール等)の付き添い。  
施設の環境整備(清掃等)など。



内容につきましては下記担当までお気軽にお問い合わせください!!

やまびこ工房 042-760-1033

担当:渡辺・稲垣・粕谷

## 後援会のページ

実りの秋となり、何を食べてもおいしい季節となりました。果物、きのこ、肉・魚類など、皆様もいっぱい食べて、元気に冬を乗り越えられる体力を作ってください。

7月末に実施した花火見物には、大勢の参加者があり、ありがとうございました。本年度後援会行事も無事に終える事が出来、ほっとしています。今後も、バザー、花火見物、チャリティ公演（2年に1回）と恒例行事にしていきたいと考えています。

先月、相模福祉村の作業所を見学する事ができました。園生の素直さ、指導員の考え方、障害者自立支援法など私の無知さを考えさせられました。今後とも、他の作業所など見学し勉強したいと思って来ました。

来年度の後援会行事も皆様の参加と協力をお願い致します。

後援会会長 中塚 清

### 平成17年度 風の谷後援会新規・更新者紹介(H17.7.5～H17.10.29 順不同敬称略)

#### 【更新・個人】

(相模原市内)

小林義明、永山明彦、豊田幸男、三田二三夫、西田明美、高橋ツギ、島森隆夫、荻原常寿、中塚和雄、清水オキク

(その他地域)

石渡和実(横浜市) 藤野孝夫(厚木市) 江崎康子(藤沢市) 岩崎秀二(東京都)  
下田武(大阪市) 佐々木継生(北九州市) 菊池礼子(盛岡市)  
塚本寿子(福井県三方上中郡) 中島和之(北海道上川郡)



## 風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒229-1124 『風の谷後援会』事務局

相模原市田名7236-3 社会福祉法人 風の谷 内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345